

# 2030年における上勝町共有ビジョン(ありたい姿)を策定しました

## 【趣旨】

- ①上勝町では、2020年度から町の最上位計画である「活性化振興計画(総合計画)」の策定を進める予定です。次期計画には、国内外の新たな社会潮流である「持続可能な開発目標(SDGs)」を取り入れ、より良いまちを築いていくための取組みをさらに進展させていく考えです。(※補足説明1: 持続可能な開発目標(SDGs)と上勝町の関係性)
- ②また、計画策定に当たっては、目の前の課題解決だけの視点でまちづくりを進めるだけでなく、これから生まれてくる未来世代のことや本町を取り巻く社会情勢の変化などを予測しつつ、将来像となる本町の「ありたい姿」を描き、そこから現時点を振り返り、長期的、複眼的な視点でまちづくりを進めていく必要があります。
- ③こうした考えのもと、町では、「2030年の上勝町の共有ビジョン(ありたい姿)」(以下、「共有ビジョン」という。)を描き、共有ビジョンを踏まえた、「活性化振興計画(総合計画)」などを策定し具現化のための事業を位置付け、この実現に向け、起業者との協力や企業連携による取組みを進めていく考えです。
- ④このため、上勝町SDGs推進委員会を新設し、町民委員(9人)と役場委員(6人)と外部有識者を招致し、「共有ビジョン」の策定を進めてきました。(※補足説明2: 「共有ビジョン」の策定経過)今般、意見募集(パブリックコメント)手続きを経て、共有ビジョンを取りまとめましたので公表いたします。



### 2018年度

- ・SDGs未来都市選定
- ・SDGs未来都市計画策定



### 2019年度

- ・共有ビジョンの作成
- ・町民ヒアリングの実施
- ・意見募集(パブリックコメント)の実施



### 2020年度～

- ・次期活性化振興計画着手
- ・事業の打ち手検討,指標作成
- ・事業,行政サービスの実施
- ・経済施策,環境施策,社会施策

取り入れ

持続可能な開発目標  
(SDGs)



## 〔補足説明〕

### 1 持続可能な開発目標(SDGs)と上勝町の関係性

①持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年に国連で採択された、2030年を期限に全世界(先進国・途上国)が目指す国際的な目標であります。経済・社会・環境の3側面における統合的解決を基本的な考え方とするとともに、森林保全や農業、エネルギー、健康、教育、地球温暖化対策など本町にとって身近な目標が掲げられ、本町の方向性や取組みと極めて親和性が高いものです。

②SDGsを取り入れるメリットとしては、未来(ありたい姿)から現在を見て、その実現のための手を考え打つことによる良質なまちづくり、様々な人々との連携、国内外への魅力の発信により、ブランド力を高め、移住者や交流人口、企業、投資の呼び込みなどが考えられます。

③また、政府では、地方自治体におけるSDGs推進策として「SDGs未来都市」の創設と選定を実施し、2018年より公募を開始しました。本町は今後の取組みを効果的に進めていくため、「SDGs未来都市」に応募し、2018年選定されました。現在、四国で唯一の「SDGs未来都市」となっております。

■2015年9月、国連「持続可能な開発サミット」において、SDGsを中核とする「持続可能開発目標2030年アジェンダ」が採決されました。SDGsは、2030年を期限とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標。全ての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものです。

■また、我が国においては、2016年5月にSDGs推進本部(本部長:内閣総理大臣)を設置、同年12月にSDGs実施方針を決定しました。さらに2017年12月に改訂した「まち・ひと・しごと創生総合戦略(2017改訂版)」には、自治体におけるSDGs達成に向けた取組みの推進が目標として掲げられ、2018年度から「SDGs未来都市」の創設と選定を行っております。

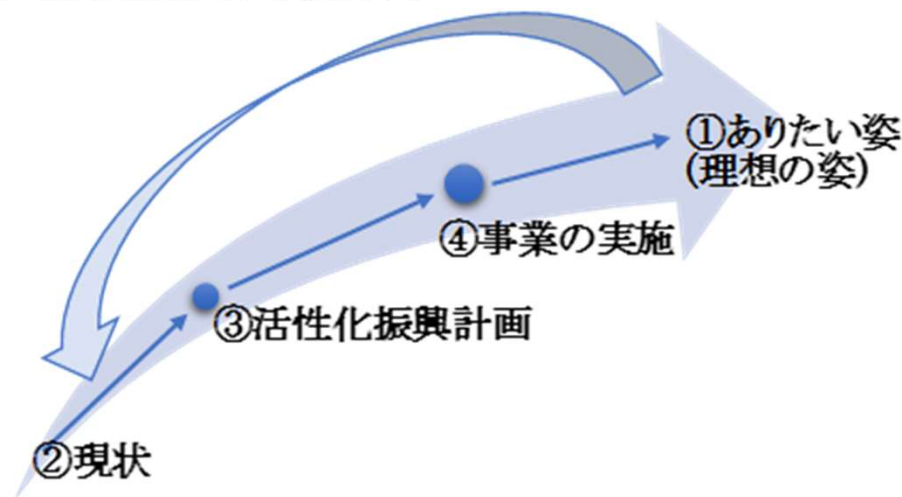
■SDGsを取り入れるメリットとしては、主に以下が考えられ、今後のまちづくりのツールとして活用していく考えです。

- ①17の目標から地域を見つめ直すことによる新たな課題の発見や気づき
- ②未来(ありたい姿)から現在を見て、その実現のための手を考え打っていく良質なまちづくり
- ③様々な人々との連携による新たなまちづくりのしくみづくり
- ④本町の魅力や将来性をSDGsの枠組みを使い国内外へ発信、ブランド力などを高め、移住者や交流人口、企業、投資の呼び込み

〔補足説明〕

2共有ビジョン(ありたい姿)の策定経過(2019年4月～2020年3月まで)

■ありたい姿は、「どのような姿にしたいのか?」、今何ができる、何ができないではなく、「本当にどうありたいか」を描いた理想的な姿です。そして、ありたい姿から現時点を振り返り、この実現に向けての次期活性化振興計画等を策定し、産業、まちの基盤づくり、教育、エネルギーなどにおける事業(打ち手)を考え、実施していきます。また、この達成度を測定する指標群を作成し、定期的に検証し改善していく考えです。



■共有ビジョン(ありたい姿)案の策定実績

- ① 4月 上勝町SDGs推進委員会委員公募
- ② 6月 第1回SDGs推進委員会(共有ビジョン作成の進め方・SDGsについて)
- ③ 7月 第2回SDGs推進委員会(システム(つながり)思考・ループ図)
- ④ 7月～10月 町民ヒアリング(上勝町に増えてほしいもの・減ってほしいもの・変わらずあってほしいもの)
  - ・町民ヒアリング実績[小学生・中学生・町内事業所・各集落など合計475人]
- ⑤ 8月 第3回SDGs推進委員会(上勝らしさ・SDGs要素の検討)
- ⑥ 9月 先進地視察(熊本県南小国町)
- ⑦ 10月 第4回SDGs推進委員会(共有ビジョン(ありたい姿)案の検討)
- ⑧ 11月 委員有志による検討会(3回)
- ⑨ 11月 第5回SDGs推進委員会(共有ビジョン(ありたい姿)案の練り直し)
- ⑩ 11月～1月 委員有志による検討会(6回)
- ⑪ 1月 第6回SDGs推進委員会(共有ビジョン(ありたい姿)案の確定・伝え方の検討)
- ⑫ 2月 第7回SDGs推進委員会(意見募集(パブリックコメント)を考える会)
- ⑬ 3月 パブリックコメントから共有ビジョンの修正検討会(2回)
  - ・パブリックコメント実績(93件)
- ⑭ 3月 上勝町共有ビジョンの完成 町長手交式

■上勝町SDGs推進委員会構成表

町民委員	委員長 坂本真理子	池添 亜希	菅原 由紀	高石健太郎	谷 健太	花本真由美
	藤井 園苗	松本 卓也	山崎 伸晃			
役場委員	北井 幸代 (住民課)	長岡 裕人 (産業課)	廣澤 元 (建設課)	前田あゆみ (税務課)	横田 正和 (教育委員会)	浅野 豪 (企画環境課)
外部有識者	枝廣 淳子 氏 ・ 大学院大学至善館教授 ・ 有限会社イーズ代表取締役 他					

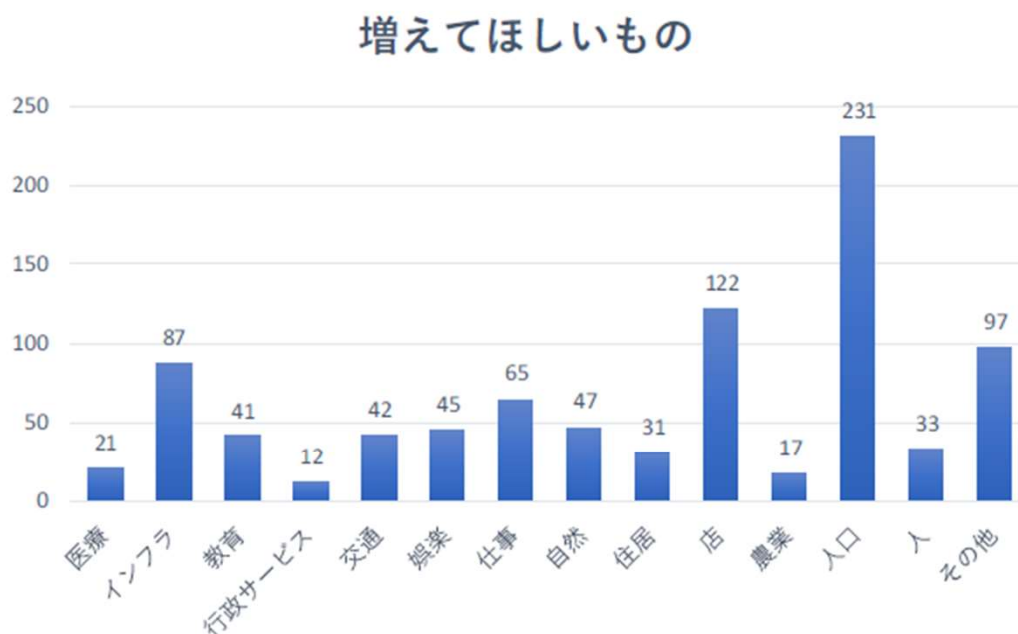
## ■町民ヒアリング

上勝町の住民及び上勝町に関わりがある人に対してヒアリングを実施しました。ヒアリングは対面で実施し、対面での実施が難しい場合はアンケート用紙を配布または、電子媒体にて実施しました。

ヒアリング先へは「①上勝町に増えてほしいもの」、「②上勝町から減ってほしいもの」、「③上勝町に変わらずにあってほしいもの」の3つの事項について質問しました。

小学生、中学生、町内事業所、各集落など合計475人に実施しました。

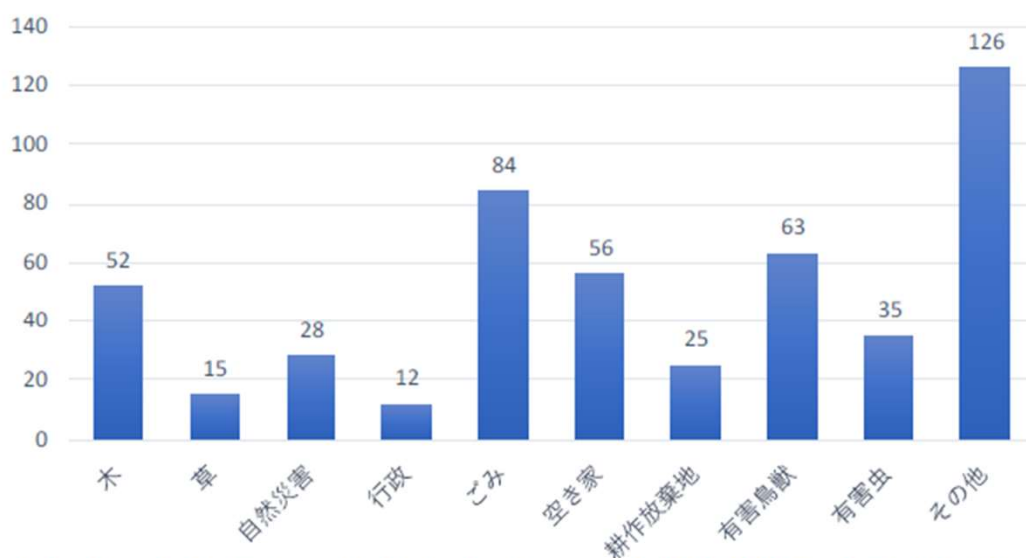
### ①上勝町に増えてほしいもの



「人口」が最も多く、人口減少を肌感覚で感じるほどになっていることが伺えます。次に「店」、「インフラ」と続き、商業施設、スーパー、コンビニ、公的施設、レジャー施設、公園などの意見や交流の場が増えてほしいとの意見も多くあがりました。そのほか、教育の充実、交通の充実、自然を活かした娯楽施設、仕事を生む企業、住居、優秀な人材、後継者などの意見が多くあがりました。その他の少数の意見でしたが、上勝町のファン、賑わい、元気、生きがい、健康、エネルギーなどの意見がありました。

## ②上勝町から減ってほしいもの

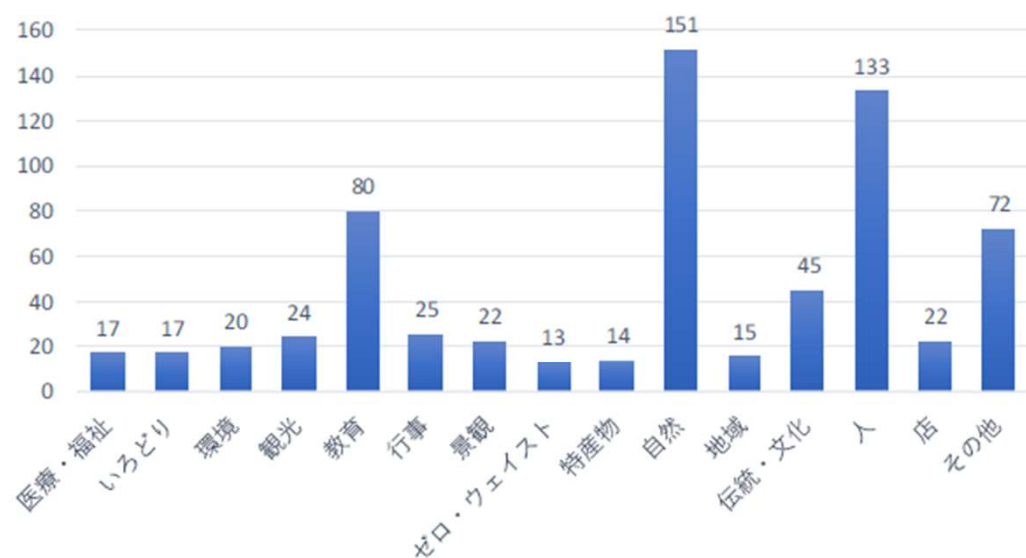
### 減ってほしいもの



多岐にわたりましたが、「ごみ」が最も多く、ごみの量や分別数などの意見がありました。続いて「有害鳥獣」、「空き家」、「木」と続き、人口減少に伴う空き家の増加が目立ってきたことが伺えます。また、「木」に関しては支障木など限定した意見もありましたが、杉そのものに対する意見も多くあがりました。そのほか、自然災害、有害虫、雑草、耕作放棄地などの意見が多くあがりました。その他の意見でしたが、ねたみ、しがらみ、派閥、出役などの意見があがりました。

## ②上勝町に変わらずにあってほしいもの

### 変わらずあってほしいもの



上勝町に変わらずにあってほしいものについては、「自然」が最も多く、山、川、空気、水などの意見が多くあがりました。次に「人」が多く、元気なお年寄りという意見や人と人とのつながりとの意見が多くあがりました。「教育」については、保育園、小・中学校が上勝に残ってほしいという意見が多くあがり、上勝での教育、子育てに対する不安を語る人も多く。そのほか、診療所、いろいろ、ゼロ・ウェイスト、温泉、祭り、棚田、晩茶や柑橘類などの特産品などの意見がありました。

# 上勝町共有ビジョン(ありがたい姿)

## 1. 上勝らしさ

### ①逆境を乗り越える→先人たちの思い

1981年2月上勝町はかつて無い大寒波に襲われ、みかんの木が全滅し、町の主要産業が壊滅的な状況となってからいどころ産業が始まり、今では年間2億6000万円を売り上げる町の主要産業となり、地方創生のモデルとして広く知られることになりました。

また、廃棄物処理に関しては、野焼きの状況から、県の指導により小型焼却炉を設置しました。2000年ダイオキシン類対策特別処置法の影響により小型焼却炉を閉鎖せざるを得なくなり、2003年ゼロ・ウェイスト宣言を可決し、分別によるゴミの回収を本格化させていきました。今ではリサイクル率80%を超え、世界中から注目される取り組みとなりました。

### ②生涯現役

自分の好きなことが生きがいとなり、生涯現役で活躍できる、元気で前向きな高齢者の時代を現実のものにしています。上勝町では60代ではまだまだ若者。町をどんどん引っ張る元気で生き生きと働く高齢者は上勝町の自慢です。

### ③環境・自然への配慮

ゼロ・ウェイスト施策のみならず、棚田の保全、木材の活用、集落での景観整備など住民主体での環境への取り組みが行われてきました。

こうした先人たちと築いてきた歴史や文化の中で、危機や困難に、知恵、工夫、行動を最大限に発揮してきました。

## 2. 上勝町を取り巻く情勢

①そして現在(2020年)、世界的には、気候変動をはじめとする地球環境の悪化、エネルギーや資源、食料をめぐる状況の逼迫、科学技術の進歩による第4次産業革命などにより、仕事や暮らしが急速に変化していくことが予測されるとともに、我が国では、世界に先駆けて人口減少、少子高齢化社会を迎えるなど、不安定で不確実な時代にあります。

②管理不全な空き家、耕作放棄地による防災・防犯・衛生・景観などを要因とする外部不経済は深刻な状況となり、将来世代への継承が課題となっています。

## 3. 上勝町のありがたい姿

①こうした時代の中で、先人たちが創り上げてきた、まちの基盤と上勝らしさを大切に、進化・深化をさせ、上勝町共有ビジョン(ありがたい姿)を元にした持続可能な美しい町づくりを実現し、未来の世代へ引き継ぐ必要があります。

②この実現のため、次の「上勝らしい」まちづくりを、町内外にかかわらず多様な人々が連携して取り組みます。

# 上勝チャレンジ宣言

🔊自然と一緒に幸せになろうだ！！

## 1. 豊かな自然と共に暮らす町

- 今ある自然に手を加えることで、人と生き物が共存できる山、川、棚田の姿を取り戻す。



🔊くるくるエネルギーでしわしわいこうだ！

## 2. 持続可能なエネルギーを創造する町

- 地域資源を有効活用し、人と自然に優しく、自立することができる循環型エネルギーをつくる。



🔊地と知と和のバトンをつなごうだ！！

## 3. 伝統や文化を受け継ぎながら世界へはばたける町

- 先人たちの技と思いを受け継ぎ、自分たちで考えて行動する力を身につけ、地域や世界に豊かさを生み出せる人を育む。



🔊子どもはみんなの宝物じょ！！

## 4. 町民みんなで子育てをする町

- 町民一人一人が子どもと主体的に関わり、支え、親も地域を頼れて安心できる子育て環境を整え、みんなが住みたくする町にする。



🔊みんなでワイワイしょーだ！！

## 5. いつまでも心身ともに健やかに生きられる町

- 様々な交流を通して隔たりのない人の輪が広がり、誰もが必要とされ生涯現役で自分らしく笑って生きる。



🔊ええもんいっぱいあるでないで！！

## 6. 地域の魅力が経済へとつながる町

- 上勝から生み出す物やサービスによる価値が町内外に広がり、幸せに暮らし続けられる経済を育み、人とお金を町内に増やす。



🔊ことごと備えて助け合おうだ！！

## 7. みんなで備え、支え合う町

- 人、物、情報が自由に行き来できる生活基盤が確保され、災害が起きても生きていけるように住民と行政で備え助け合う。

